

レジメン名

Bev+CBDCA+PEM

出典 アリムタ適正使用ガイド2013年2月作成
J Clin Oncol 30,2012(suppl;abstr 7506)
LUNG CANCER 70(2010)71-76

実施部署区分

入院 外来 処置

対象疾患

非扁平上皮肺がん

■進行・再発
□補助療法(術前・術後)
□
□
原則PS0-1を対象とする

投与減量の基準

Plt \geq 5万/mm³かつANC < 500/mm³
 Plt < 5万/mm³
 ANC < 1000/mm³かつ38.5℃以上
 前コースで上記のいずれかを満たすとき、アバステン以外を75%doseに減量。
 Plt < 5万/mm³かつ出血を認めるとき、アバステン以外を50%doseに減量。
 Grade1-2の粘膜炎を認めるとき、アリムタのみ50%doseに減量

投与中止の基準

ANC	1500/mm ³ 未満	PLT	7.5万/mm ³ 未満※
Hb	8.0g/dL未満※	CLcr	45mL/min未満#
AST,ALT	120IU/L以上*	T-bil	1.8mg/dL以上*
その他	#CLcrの評価はCockcroft-GaultとeGFR×BSA/(1.73×0.715)のうち高い値を採用する。 *肝転移がある症例では、AST,ALT 200IU/L以上、T-bil 3mg/dL以上とする。		

※出典ではPlt 10万/mm³未満、Hb 9.0g/dL未満だが、制限が厳しいためGrade2の血液毒性として上記の値で登録

1クール期間 21日

総クール数 4-6クール

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1, d8等)
ペバシズマブ	15mg/kg	NS100mL	90分* (30分まで漸減可能)	d1
ペトレキセド	500mg/m ²	NS50mL (全量80mL以下)	10分	d1
カルボプラチン	AUC5(GFR+25)	5%TZ250mL	60-90分	d1
カルボプラチンの投与量計算に用いるGFRはCockcroft-GaultとeGFR×BSA/(1.73×0.715)のうち低い値を採用。 安定性の観点から、カルボプラチンの希釈液は5%TZを基本とする。				
※初回は90分、忍容性があれば2回目は60分、3回目以降30分に短縮可				
ペトレキセド投与1週間以上前～最終投与日から22日目まで、葉酸0.5mg/日を連日経口投与とビタミンB12 1mg/回を9週間毎に筋注。				

1日投与順 (経時的にプレ Medikation・ポスト Medikation、 溶解液まで含む)
day1 ①生食50mL(ルート確保用) ②ペバシズマブ15mg/kg+生食100mL(90min※) ③生食50mL(フラッシュ用) ④グラニセロン3mgハック+デキサト6.6mg(15-30min) ⑤生食50mL(フラッシュ用) ⑥ペトレキセド500mg/m ² +生食(100mL)50mL(10min) ⑦生食50mL(フラッシュ) ⑧CBDCA+5%糖液250mL(60-90min) ⑨生食50mL(フラッシュ用)